

孫の世話してるつもりが世話焼かれ

竹山 八重子

【評】 同じ風景でも、自分の視点と孫の視点を対比しながら、見える景色の違いをうまく描き出している。日頃から自分は孫の世話を頼まれ、世話をしているつもりで生活を送っていた。ところが、孫の言動や心情を受け止めてみると、エネルギーあふれる孫は私の歩くスピードに合わせたり、疲れていないかに気を配ったりしながら、私の目の届く範囲で行動していてくれた。そんな孫の行動に感謝の思いが湧き上がってきた。